

グラウンドゴルフの意味

—三原市内の競技者に対する調査—

紙屋 和真

key words : グラウンドゴルフ, 作業の意味, 重要度, 質問紙調査

要旨

本研究の目的は競技者がグラウンドゴルフに対して持つ意味の特徴と、重要度と意味の関係性を明らかにすることである。グラウンドゴルフ競技者 70 名を対象とし、年齢や経験年数などの個人属性と重要度、作業の意味についての設問を記載した質問用紙を用いた調査を実施した。その結果、競技者の個人属性の特徴からグラウンドゴルフの特徴、感じている意味の特徴が分かり、「目的」、「自己」という項目において、重要度が高い対象者が「はい」と回答した数が重要度が理論値よりも多かった。これらのことから、グラウンドゴルフは高齢で始めても長く続けることができるスポーツであること、共通の意味と意味の個別性、重要度が高い対象者群はグラウンドゴルフをすることを目的としており、自分らしいと考えていることが示唆された。

はじめに

グラウンドゴルフは、昭和 57 年に鳥取県東伯郡泊村生涯スポーツ活動推進事業の一環とし、泊村教育委員会が中心になり考案された子供から高齢者まですべての人が、楽しむことができるスポーツである¹⁾。特徴として、場所を選ばず自由にコースを設定することができ、簡単なルールと少ない道具で行うことができるというものがある。さらに、グラウンドゴルフには高度な技術を必要とせず、全力を出す場面と、集中力や調整力を発揮する場面がうまく組み合わされている。全国でも盛んに行われており、日本グラウンドゴルフ協会²⁾に登録している会員数だけで約 13 万人、笹川スポーツ財団³⁾による調べでは 95 万人となっている。

これまでの研究では、グラウンドゴルフに身体的・心理的な効果があることは明らかになっている。また、競技者は「楽しさ」や「身体によいと感じている」ことが分かっている^{4) 5)}。作業には「感情・目的か手段か・世界との繋がり・自分らしさ・生活の構造化・健康との関連性・社会的意味・作業の類型化」の側面的意味があるとされている⁶⁾。同様にグラウンドゴルフも多様な意味を持つと考えられるが、その意味は明らかになっていない。多様な意味があることを明らかにすることで、グラウンドゴルフ競技者の主観的経験の理解に役立てることができるのではと考える。そこで本研究の目的は競技者がグラウンドゴルフに対して持つ意味の特徴と、重要度と意味の関係性を明らかにすることである。

研究方法

1. 対象

本研究による調査対象は、三原市内でグラウンドゴルフを行っている競技者とした。対象者は三原市内の公園等で定期的にグラウンドゴルフを行っているグループに所属し、練習に参加している者とした。対象者への調査の協力依頼は、三原市グラウンドゴルフ協会の会長を含む競技者・関係者から紹介してもらった。

2. データ収集

調査方法については、対象者がグラウンドゴルフを行う日に、現地にて著者による所定の質問用紙の直接配布を行い、回答終了後にその場で回収をした。一部調査にて、配布後の次回の練習日に回収を行った。

質問用紙では、年齢やグラウンドゴルフの競技歴などの基本属性、グラウンドゴルフの重要度、吉川⁷⁾が開発した『作業の意味に関する調査票』をもとにした「はい・いいえ」で答えられる 21 項目の質問表（添付資料の資料 1 を参照）を設定し、2 枚つづりの質問用紙となった。回答項目の意味が分からないという場合には著者がその都度説明を行った。

3. データ分析

対象者の個人属性と重要度については、記述統計を用いて特徴を明らかにした。

グラウンドゴルフの意味については、記述統計に加えてグラウンドゴルフの重要度によって回答に差が

あるかどうかを調べるために χ^2 検定を行った。重要度は10段階を低い(1~3), 中程度(4~7), 高い(8~10)の3つに分けて検討を行った。

4. 研究倫理

本研究においては無記名の自記式質問紙調査とした。調査時には質問紙に加えて研究の目的, 調査実施者, 倫理的配慮等を記載した用紙を配布し研究協力への理解を得た。

結果

1. 得られた回答

現地にて調査を行い, 7グループ85名分の回答の回収を行うことができた。85名分の回答のうち完全回答が得られた70名分(82.4%)を有効回答とした。

2. 基本属性

今回の調査において得られた基本属性と重要度を表1に示した。年齢は, 平均年齢が78.4歳, 標準偏差は4.33で最低年齢が68歳となり, 対象者全員が高齢者であった。性別では男性と女性の割合に大きな差は無かった。グラウンドゴルフを開始した年齢は60代が51.4%, 70代が33.6%と60代以上でグラウンドゴルフを始めた対象者が96%であった。競技歴は3年以上5年未満14.3%, 5年以上24.3%, 10年以上48.6%となった。練習へ参加頻度は週2回以上参加している対象者は98.6%となった。重要度については, 全員が5以上であった。重要度の平均は7.9, 標準偏差は1.6となった。

3. グラウンドゴルフの意味

作業の意味の設問に関する回答を表2に示す。全て

	Q1 快感情		Q2 不快感情		Q3 目的		Q4 手段		Q5 人との繋がり		Q6 場所との繋がり	
はい	70	100%	5	7%	42	60%	37	53%	70	100%	63	90%
いいえ	0	0%	65	93%	28	40%	33	47%	0	0%	7	10%
	Q7 時間との繋がり		Q8 生活習慣の形成		Q9 生活習慣の崩壊		Q10 生活習慣の固定化		Q11 自己		Q12 疎外	
はい	48	69%	70	100%	2	3%	21	30%	57	81%	9	13%
いいえ	22	31%	0	0%	68	97%	49	70%	13	19%	61	87%
	Q13 自己喪失		Q14 健康増進		Q15 健康保持		Q16 健康低下		Q17 役割		Q18 不利	
はい	2	3%	67	96%	70	100%	0	0%	58	83%	1	1%
いいえ	68	97%	3	4%	0	0%	70	100%	12	17%	69	99%
	Q19 義務		Q20 自由		Q21 リラックス							
はい	23	33%	68	97%	69	99%						
いいえ	47	67%	2	3%	1	1%						

の対象者が「快感情 (Q1)」、「人との繋がり (Q5)」、「生活習慣の形成 (Q8)」、「健康維持 (Q15)」の4項目において「はい」、「健康の低下 (Q16)」において「いいえ」と回答した。

対象者の90%以上が「場所との繋がり (Q6)」、「健康増進 (Q14)」、「自由と感じる (Q20)」、「リラックスできる (Q21)」の4項目について「はい」、「不快感情 (Q2)」、「生活習慣の崩壊 (Q9)」、「自己喪失 (Q13)」、「社会的不利 (Q18)」の4項目において「いいえ」と回答した。

対象者の50~90%が「はい」と回答した項目は、「目的 (Q3)」、「手段 (Q4)」、「時間 (Q7)」、「自己 (Q11)」、「役割 (Q17)」となった。

表1 基本属性

個人属性	男性	女性	計					
性別								
n	39	31	70					
(%)	55.7	44.3						
年齢	平均	標準偏差						
	78.4	4.33						
開始年齢	50歳未満	50代	60代	70代	80歳以上	計		
n	2	1	36	27	4	70		
(%)	2.9	1.4	51.4	33.6	5.7	100		
競技歴	半年未満	半年~1年未満	1~3年未満	3~5年未満	5~10年未満	10年以上	計	
n	1	1	7	10	17	34	70	
(%)	1.4	1.4	10.0	14.3	24.3	48.6	100	
練習への参加頻度	月1回未満	月1, 2回	週1回	週2回	週3回以上	計		
n	1	0	0	21	48	70		
(%)	1.4	0	0	30.0	68.6	100		
大会参加回数	全くない	1~3回	4~10回	10回以上	計			
n	3	15	7	45	70			
(%)	4.3	21.4	10.0	64.3	100			
重要度	1~4	5	6	7	8	9	10	計
n	0	5	11	10	19	7	18	70
(%)	0	7.1	15.7	14.3	27.1	10.0	25.7	100

表2 各設問への回答結果

表3 χ^2 検定の結果

項目	快 (Q1)		不快 (Q2)		目的 (Q3)		手段 (Q4)		人 (Q5)		場所 (Q6)		時間 (Q7)	
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
重要度高い	44	0	5	39	32	12	21	23	44	0	39	5	33	11
重要度低い	26	0	0	26	10	16	16	10	26	0	24	2	15	11
検定結果	NS		NS		p = 0.0047		NS		NS		NS		NS	
項目	形成 (Q8)		崩壊 (Q9)		固定 (Q10)		自己 (Q11)		除外 (Q12)		喪失 (Q13)		増進 (Q14)	
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
重要度高い	44	0	0	44	16	28	39	5	6	38	0	44	41	3
重要度低い	26	0	2	24	5	21	18	8	3	23	2	24	26	0
検定結果	NS		NS		NS		p = 0.0437		NS		NS		NS	
項目	保持 (Q15)		低下 (Q16)		役割 (Q17)		不利 (Q18)		義務 (Q19)		自由 (Q20)		リラックス (Q21)	
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
重要度高い	44	0	0	44	37	7	0	44	16	28	43	1	43	1
重要度低い	26	0	0	26	21	5	1	25	7	19	25	1	26	0
検定結果	NS		NS		NS		NS		NS		NS		NS	

4. グラウンドゴルフの重要度における意味の違い
 設問した項目によって得られた結果から、重要度が高い対象者（8以上）と重要度が中程度の対象者（4～7）の回答を表3に示した。 χ^2 検定の結果、21項目中2項目、「グラウンドゴルフをすることそのものが目的ですか(Q3)」「グラウンドゴルフをする自分を自分らしいと感じますか(Q11)」において回答に有意差がみられた。どちらの項目においても、重要度が高い対象者が「はい」と回答した数が重要度が理論値よりも多かった。

考察

1. グラウンドゴルフの特徴

個人属性より、60代でグラウンドゴルフを始める人が半数を占めている事、10年以上続けている人が約半数であることが特徴として挙げられた。このことから、グラウンドゴルフは高齢で始めても長く続けることができるスポーツであることが伺える。グラウンドゴルフの簡単なルールと少ない道具で行うことができる点、と全力・集中力を発揮する場面がうまく組み合わせられている点が、始めやすさや継続しやすさに影響していると考えられる。

2. グラウンドゴルフの意味

記述統計を行った結果から90%以上が「はい」と回答した8項目をまとめると、グラウンドゴルフは競技者にとって快感情を伴い、人・場所との繋がりや生活習慣を形成し、健康を維持・増進する自由でリラックスできる作業であると考えられる。これまでの先行研究では見受けられなかった「場所との繋がり、生活習慣の形成」という意味が明らかになった。

「生活習慣の形成、人・場所との繋がり」の項目に

対して「はい」が多く見られたのは決まったメンバーで構成されるグループで定期的に同じ場所に集まって活動を行っていることが影響していると考えられる。

宮本⁴⁾の研究において、グラウンドゴルフに対する「楽しさ」に影響する要因として、「友人・グループでプレイや時間を共有するなど他者交流を示す社会的要因」が強く影響を与えている事が明らかになっている。本研究結果においても、「人・場所との繋がり」と「快感情」の項目に「はい」と答えていることが多かったことから影響を与えている可能性が示された。

また、対象者の「はい」という回答が50～90%の間でばらけてる設問がある事から、競技者によっては時間との繋がりや役割としての作業という意味を持つ、作業の意味の個別性が示唆された。

3. グラウンドゴルフの重要度と意味の関係性

今回の調査では、「目的(Q3)」「自己(Q11)」に有意差が見られ、重要度が高い対象者群はグラウンドゴルフをすることを目的としており、自分らしいと考えていることが分かった。

グラウンドゴルフを自分らしいと思う事は、グラウンドゴルフが対象者のアイデンティティを構成している要素の一部であると考えられる。自分らしさを構成している作業であるからこそ、その作業が行うことを目的とし、重要になるということが示唆された。

今後の課題と展開

1. 研究の限界

本研究の限界として、今回の調査の範囲を三原市に

限定したことと調査を行った対象者の人数が多くないという点から、得られた結果を一般化できない。

さらに、今回の研究ではグラウンドゴルフの重要度と意味との関係しか検討しておらず、経験年数などそのほかの要因に対する検討が十分にできない。

2. 今後の展開

今後の展開としては、調査範囲の拡大とより多くのグラウンドゴルフ競技者を調査することで一般に当てはめられるようにしていくことが必要である。

また、経験年数によってグラウンドゴルフの意味が変化するのかを、縦断研究によって明らかにしていきたい。

謝辞

本研究に快く協力して下さった対象者の方々、そして丁寧にご指導頂きました高木雅之教授に心から感謝いたします。

文献

- 1) 公益社団法人日本グラウンドゴルフ協会：グラウンド・ゴルフとは？
<https://www.groundgolf.or.jp/about/about/tabid/75/Default.aspx>
- 2) 公益社団法人日本グラウンドゴルフ協会：会員登録状況
<https://www.groundgolf.or.jp/profile/tabid/103/Default.aspx>
- 3) 笹川スポーツ財団, SSF スポーツライフ調査委員会：スポーツライフ・データ 2018 スポーツライフに関する調査報告書. 笹川スポーツ財団, 東京, 2019, pp. 89-90
- 4) 宮本普一：高齢者スポーツの持つ可能性-グラウンド・ゴルフの「楽しさ」を規定する社会学的要因と効果-. 沖縄大学人文学部紀要 10 号：97-107, 2007
- 5) 中島匠郷, 炭谷将史, 土屋裕睦：高齢者にとってグラウンドゴルフをする意味とは-心理学的エスノグラフィーによる分析から-. 聖泉論叢 18 号:163-174, 2010
- 6) 吉川ひろみ：「作業」って何だろう. 医歯薬出版株式会社, 東京, 2018, pp. 22-43
- 7) 吉川ひろみ, 港美雪：作業の意味を考える枠組みを用いて検討したプラス作業とマイナス作業の比較. 作業療法 30：71-79, 2011